2023年度岩手大学平泉文化研究センター国際フォーラム

中国陶磁器の生産と日本への流通の解明に向けた先端分析

～人文科学と材料科学が紡ぐ新知創造学際領域の形成～

1　趣旨

平泉文化をはじめ、12世紀を前後する時期の日本国内の主要な拠点を特徴づける中国陶磁器は、長く続けられてきた遺跡の発掘調査によって豊富に出土している。これらは、文字による歴史の空白を埋める重要な資料であり、その生産から流通に至る過程の解明が求められている。

この観点から、陶磁器の胎土分析は40年以上にわたり続けられてきたが、分析の精度に課題があり、結果の解釈が困難な場合もあった。

この課題に対し、最先端の分析機器がどのように貢献しうるのか、これまでの研究成果を振り返りつつ、今後の陶磁器分析の展望を探ろうとするものである。

2　日時

令和６年（2024）１月19日（金）　13：00～16：00　（12：30受付開始）

3　会場

岩手大学北桐ホール（020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-33　教育学部１号館２F）

4　主催

岩手大学平泉文化研究センター

5　共催

東北大学金属材料研究所新知創造学際ハブ

6　対象

一般（100名程度）

7　プログラム

○開会行事（13：00～13：10）

○基調講演（13：10～13：50）※

「量子ビームによる陶磁器研究の展望」　藤田全基（東北大学金属材料研究所）

○事例報告（14：00～15：50）※

①ポータブル複合X線分析による福建省・浙江省磁器の元素分析
會澤純雄　（岩手大学理工学部）

② 宋元期における福建窯業の生産と対外貿易（宋元时期福建窑业生产与对外贸易）
羊澤林　（福建省考古研究院）

③龍泉窯・甌江と温州港　沈岳明　（上海復旦大学）

④宋元期における山東沿岸の集散地遺跡の発見と研究（山东沿海宋元时期港市遗址的发现与研究）　楊小博（山東省水下考古研究中心）

○閉会行事（15：50～16：00）

※基調講演及び事例報告①は日本語で行われます。
事例報告②～④は中国語で行われますが、逐次日本語へ通訳します。また、オンラインによる報告となる場合があります。

8　申込方法

聴講は無料です。（当日受付）

※オンライン（Zoom）での参加（視聴のみ）を希望される場合は、１月15日（月）までに下記問い合わせ先までお申し込みください。

9　お問い合わせ先

岩手大学平泉文化研究センター　fax.:019-621-6529、メール:yoshisat@iwate-u.ac.jp